



発行日 2000年12月26日 第7号
 発行 札幌歯科医師会立口腔医療センター
 〒064-0807 札幌市中央区南7条西10丁目
 TEL (011)511-7774 FAX (011)511-1530
<http://sasshi3.pobox.ne.jp/>
 E-mail sasshi@tky2.3web.ne.jp
 発行人 小林 重行 発行責任者 鶴岡 一彦

保護者対象懇談会開催



障害者診療部 渡辺 浩史

口腔医療センターでは、患者さんの保護者の皆様との相互理解と連携を更に深めるために、本年も保護者を対象とした懇談会を、6月17日（土）札幌歯科医師会館5階大講堂において開催いたしました。

今年で第3回目となる当会は、口腔医療センターへのご意見やご質問、日常生活や歯科医療で普段疑問に思っていることやお困りのことなどを自由に気軽に語り合う会です。

当日は9名の保護者の出席がありました。口腔医療センターからは小林重行所長以下10名の所員、5名のスタッフが参加しました。そしてゲストとして札幌市児童福祉総合センター児童相談所医療担当部長の石川丹先生と市立札幌病院静療院の田中哲先生にもご参加頂きました。

小林所長の挨拶と蓑崎健三郎総務部長の事業報告、出席者の紹介に続いて懇談へと入りました。

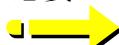
懇談内容は主にセンターの、1) 診療、2) 運営、3) 施設、4) その他について行われましたが主なご質問、ご意見やご要望を以下に簡単に報告いたします。

まず最初に、診療の際のタービンドリルの音に対して子供が恐怖心をもっているので何か対策はないか？という質問がでました。回答は以下のとおりでした。1) ヘッドフォンをして音を遮断したり好きな音楽を流して騒音を緩和したり注意をそらす。2) 聴覚訓練を行う。3) 解釈のレベルの問題なので行動療法（慣れる等の訓練）のアプローチ。4) ティーチプログラムを用い騒音があったり、痛くても大丈夫と学習させる。5) レーザーを利用した音が小さい切削器具が開発されているが現在臨床で十分普及しておらず今後の研究課題である。

次に自閉症患者において歯周炎の消炎のために抗生物質を服用した際の副作用、特に胃腸への悪影響が心配であるという質問がよせられました。これに対しては以下の回答がありました。1) 医学的には短期間での服用では問題ない。2) 自閉症患者はたしかに腸管は弱いが、学会レベルでは自閉症患者が特に副作用がつよい等の認識とはなっていない。3) 歯周炎の治療はプラークコントロールが基本であり抗生物質は局所に応用すれば全身的には問題ない。

口腔センターに対しては、スタッフが長年変わらず、また定期検査や診療の際に十分説明してくれる安心であるという声をいただきました。一方、診療室への入り口が狭く車椅子には不便であるという指摘もありました。

また地域医療に関する要望としていくつかの意見がありました。具体的には以下の4点でした。
 1) 地域での障害者歯科診療を行える歯科診療所が増えるのが希望。2) 1人の障害者を診療する場合に、単科ごとではなく歯科医や各科の医師がチームを組んでトータルケアができる体制の確立を望む。3) 障害者が何かを行うときに窓口が多く煩雑である。行政を含めた窓口のスリム化が必要である。



口腔医療センター通信(2/6)

4) 医科でも障害者治療を専門に行う医療機関の必要性を感じる。これに対してセンター側から、現在札幌歯科医師会では障害者歯科診療ネットワークがあり、センターが窓口となり各歯科医院と連携し診療の相談や歯科医師の紹介等を行っており、今後はさらに医科を含めたネットワーク作りに尽力していきたい、という見解が述べされました。

その他の意見としては、学校から帰宅してからの学童保育や施設の充実を望む、肥満対策の減量のリバウンドで食べ過ぎになりう蝕の発生が心配である。等の様々な意見がありました。

限られた時間でしたが活発な意見の交換があり大変有意義な懇談会でした。保護者の皆様の熱意や子供に対する愛情がひしひしと伝わってきました。また石川先生と田中先生からもそれぞれの立場から貴重なご意見をいただきました。

なお今回は託児所を設けて皆様方に少しでも安心して参加いただける様にいたしました。

最後となりましたが、この懇談会で出された意見や要望などを検討し、今後の口腔医療センターの診療や運営ならびに地域医療の貢献に役立てていきたいと考えております。



熱意がそのまま伝わってきそうな懇談会の様子

第6回日本摂食・嚥下 リハビリテーション学会に出席して・・



障害者診療部 牧野 秀樹

9月8日（金）、9日（土）、桃太郎と果物で有名な岡山県倉敷市で開催された第6回日本摂食（せっしょく）・嚥下（えんげ）リハビリテーション学会に出席させていただきましたのでご報告いたします。連日、猛暑の中、様々な職種の関係者が熱心に発表・質疑を行っていました。

障害のある人にとっては日常生活のあらゆる動作が重労働であり、口から食べることで窒息や肺炎を引き起こす誤嚥（ごえん）は本人にとっても介護者にとってもたいへんな問題です。たとえ口から上手に食べられても、チューブで栄養をとっても、不潔な口の中の唾液を誤嚥すれば同じように肺炎になります。

口の中が清潔な状態は、むし歯や歯槽膿漏の予防だけではなく、全身の健康にたいへん意味のある重要なことだと思います。口腔医療センターで定期検診を受けている皆さんには大丈夫ですね。子供でもお年寄りでも、障害を受けた早い時期に適切な訓練の開始が必要です。時間がたっても遅過ぎることはあります。訓練が長くなることがあります。ちょっとした物事が口から食べることを妨げていることがありますので、まず細かく一つ一つチェックして問題点を整理してみます。この時に（ご家庭・学校・施設での）食事中のビデオ撮影が大変参考になります。お子さんにとっては初めてのことかも知れません。徐々にできるようになっていきますが期間がかかりますので介護者も忍耐が必要です。続けることが大事です。



口腔医療センター通信(3/6)

学会では障害の性質や重度の違いにより、色々な所で色々な取り組みが行われていることを勉強してきました。我々歯科医師・歯科衛生士だけでなく医師（内科・耳鼻科・神経科等）・作業療法士・学校施設の先生などまわりの皆さんと家族が共に障害を理解し克服していく重要性を感じました。

北海道大学歯学部特殊歯科診療部の先生のご指導のもと今後センターでの摂食・嚥下指導に生かしていきたいと思います。外来での指導には限界や問題点もありますが、より積極的にレベルアップしていくこうと考えておりますので気がついたことがありましたらお気軽にご相談下さい。

日本障害者歯科学会に出席して



障害者診療部 田村 宏

初めまして、4月より口腔医療センター障害者診療部所員となりました田村です。

10月14日（土）、15日（日）の両日、清水俊郎、長川公彦両所員、石川桂子、工藤由加里両衛生士さんと共に千葉市で開催された、第17回日本障害者歯科学会総会に参加してきましたので、その内容について簡単にご報告させていただきます。

天候にも恵まれ、ぽかぽか陽気の中での学会でした。会場は東京歯科大学千葉校舎でして、緑に囲まれた、レンガ造りのすばらしいキャンパスで、学生生活を過ごすには、最高の環境を感じられました。

講堂での特別講演では「癒（いや）しの文化史」ということで北里大学の広川昭二名誉教授が講演され、歴史の場面から「治療」「看護」「癒し」の基本的関係を確認し、医療の原点が「治療」より「癒し」にあるのではと振り返ってみなさいとご教示いただきました。

また、「癒し」は最終的には「魂のケア」であると話され、自分も忘れかけていた日常の診療を改めて考えさせられました。

また、シンポジウムでは介護保険と歯科の関係について論じられており、医療・介護サービスに対する需要、供給体制、費用についての現状と将来について検証されていました。

少子高齢化社会の進展などによる構造改革のなかで、高齢者歯科と障害者歯科との関係を大いに考えさせられました。

各障害者歯科診療所からの報告では、かなり自治体によって予算や取り組み方が異なることがわかりました。その中で私達の札幌歯科医師会口腔医療センターは限られた予算の中で質の高い障害者医療を提供できていると確信しました。

4月より障害者診療部所員となり7～9月と実際に診療を担当し、自分なりに患者さんから学び、またできる限りの治療をしたつもりではいましたが、多数の演者の発表を聞くことにより考えさせられ新たなる発見をする事ができました。その機会が与えられたことをうれしく思います。

そして、今後の私の障害者治療に少しでも役立ってくれればと思います。

介護・口腔ケアセミナー開催



企画研修部 魚津 修司

9月9日（土曜日）午後2時より札幌歯科医師会館5階大講堂にて第4回介護・口腔ケアセミナーが開催されました。このセミナーは老人介護の第一線で介護に携わっている方々に口腔衛生の重要性を認識して頂き、口腔ケアの実践技術を習得してもらうことを目的に2年前から行っています。これまでの「在宅介護者教育講座」という名称が今回から「介護・口腔ケアセミナー—お口さわやか、すこやか人生—」と親しみやすいタイトルに変わりました。当日は看護婦、保健婦、ホームヘルパー、歯科衛生士、介護福祉士など合わせて40名の参加がありました。

今回は前半が口腔ケアの基本的な知識のための講義で中澤口腔医療センター企画研修部長が担当、後半はブラッシング指導、要介護者の口腔清掃をする際の基本姿勢・手技等について佐々木千雅子を中心とした北海道歯科衛生士会札幌支部会員、学院歯科衛生士科教務職員、センター職員をインストラクターとして実施しました。



貴重な話に耳を傾ける受講者の方々

要介護者のQOL向上にとって口腔内の健康が維持されることは重要です。継続的かつ適切な口腔ケアの実践は欠かすことができません。しかしあれわれが日常に行っているような健常者を対象として診療や口腔ケアをそのまま要介護者にあてはめることは思わぬ事故を招くことになります。また要介護者の心理状態に対する配慮も必要です。要介護者の目線で接し、個々の状態に合わせた口腔ケア方法の選択、指導が肝心であることを再認識させられた講習会でした。



覚えるのが大変？嚥下体操の風景

口腔医療センターではこれからも介護者のニーズに合うような充実した講演を行っていこうと考えています。またこのセミナーを機会により多くの人に「訪問歯科診療」を知ってもらい、介護者用の歯科連絡ファックス用紙などを活用してもらうことにより口腔ケアに関する知識を身につけた方々が増えてくれることを願っております。

家族の一員として役立っています

田畠 千里ちゃんのお母さん 田畠 優子 さん

娘（千里）は施設を嫌がり、今は在宅です。当初、一日をどう過ごさせるか不安でしたが、もう通所はしたくないという気持ちがあってか、娘なりの努力があって、何とか今日までやってきました。努力の過程を見てみました。



口腔医療センター通信(5/6)

『洗濯』 朝起きるとすぐ乾いた洗濯物を取り込み、たたみ、家族別に分類し、さらにその日の洗濯をします。干し方も最初はこちらの要求通りにやれなくて、再々いら立ち、泣きながらやっていましたが、今はとても几帳面に干すようになり、自分なりの形も確立して、家人の口出しを許しません。

『掃除』 あまりやりたがりませんが、週一回のトイレ掃除はしっかりパターン化し、マット類の洗濯、掃除の時着ていた服を洗って（潔癖なのです）仕上げとなります。各部屋のゴミ集めもよくやり、分別にも真剣です。

『ベランダの花がら摘み』 千里ならではの根気のよさで、枯れ葉や花がらが取り除かれ、プランターの花々は美しい姿をいつも保ち、家族の目を楽しませてくれています。

『買出し』 運動不足を解消させるためにお願いしました。運動は大嫌いな分野ですがお金に关心が強いので、夏200円、冬400円との契約で続いています。

ナップザックに牛乳4本、両手に野菜を下げて汗だくで帰ってきますが、おかげで腕の力がついてきました。

『料理』 小さい頃は、自分なりに楽しんで作ってくれたこともありましたが、今は全然やりたがりません。無理強いするといら立つので、成り行きまかせて時を過ごしてしまいました。楽しくやるための私の努力の欠如と反省・・・。

でも料理は本人のためにも、他の人のためにも何品か作れるようになってほしいと思っています。カップめんに白菜を入れて、ギックリ腰で動けなくなった私に用意してくれたときは嬉しかった。

本人が一番力を入れているのは『ほどき物』です。

初めは和服が主体でしたが、今では洋服でも何でも、とてもきれいにほどきます。仕事が切れないように準備するのが大変なくらいです。根気のいる単純作業が好きで、この分野で職につければいいのにと思っています。

何かができるだけが役立っている訳ではありません。動物や虫、アクセサリー、ぬいぐるみにも興味を持ち、千里を通して家族みんなが、愛しさや、不思議さ、美しさを知ることもできました。

自閉症特有の融通性のなさも、私たちが融通を利かせすぎて、正直とか、純粋さを失っていることに気づかされたりしています。

これまでの生活の中で、様々な困難に出会いましたが、娘の成長を見るにつけて、可能性の大きさに驚かされますし、これからも希望を持って生活をしてゆきたいと思っております。

成長を願って

岡 達也君のお母さん 岡 美恵子 さん

まだまだ子供と思っていた達也も今は15歳。急速な体の成長に親の私は喜んでいいのか複雑な心境です。今まで何度も子育てにつまずき自信を失い、その都度周りの人達に支えられ家族の協力も得てここまでこれました。

達也は自閉症と言語障害、てんかん発作もあって朝晩薬を飲んでいます。何年も発作薬を飲み続けているので自分から水と薬を出して飲むようになりました。私は目的を持って達也を育てています。それは自立です。自立することが大切だと思うので時には厳しく又やさしくきちんと教える事伝える事は本当に難しいです。

達也は言葉の指示は難しい時もあって目で見て覚えるので私が手本を示して達也と一緒に同じ事を繰り返している内、出来るようになり1人でやれたら必ず褒めて褒めまくり、その時の達也の顔は自信にあふれています。

社会勉強も大切なことで色々な場所に連れて楽しみながらのマナーも学ばせ、大人に成長していく事を願って終わりにします。

口腔医療センターの先生、看護婦さん小さい時から達也の歯の治療ありがとうございます。



- 札幌市中央図書館より本の寄贈がありました。
障害者診療部待合室に置いてあります。みんなで大切に読みましょう。

- ぱるすのバックナンバーは札幌歯科医師会のホームページで閲覧できます。
(<http://sasshi3.pobox.ne.jp/>)

- 救急診療部に車椅子で来院の方は、折りたたみ式車椅子用スロープの用意がありますので受付にお声をかけて下さい。



救急診療部からのお知らせ

夜間の歯の痛みなど、救急処置を目的としています。

継続的な治療は受けられませんのでご注意ください。



診療時間 午後7時～午後11時
(受付 午後6時30分～)

年中無休

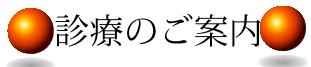
電話番号 (011) 511-7774

※ 必ず保険証をご持参下さい。

夜間救急診療部は、年末年始も休まず診療しております。

混雑が予想され、受付から診療までの時間が多少長くなりますのでご留意下さい。

障害者診療部からのお知らせ



診療時間 火～金曜日 午後 2時～午後5時
土曜日 午前10時～午後1時
午後 2時～午後5時

電話番号 (011) 512-9497
休診 月曜日・日曜日・祝日・年末年始

※ 障害者診療は完全予約制となっております。
診療ご希望の方は、下記の時間帯にお電話にてご予約下さい。

火～金曜日 午前9時30分～正午

来年の診療は1月4日(木)から通常通り致します。

編集後記

日本選手の活躍がめざましかったパラリンピックでした。

話は変わりますが、コメディアンの志村けんさんは脳性マヒの方と以前からずっと文通しています。相手はくりすあきら君といって詩集を出しています。(『ぼくはてんさいかのう』径書房)今度さがして読んで見ようと思います。

佐藤ゆたかさん原稿ありがとうございました。今回は紙面の都合で載せられなくてごめんなさい。次回には必ず載せますので楽しみにしていて下さい。

次号は3月に発行予定です。

(企画研修部部長 中澤 潤)

